

平成24年度

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会 事業報告書

平成25年3月発行

1. 事業の目的

少子高齢化や労働人口の流出による世帯当りの人員の減少は、居住地域において独居者や単一世代のみの世帯を増加させて、世代間での共助や相互扶助の精神、あるいはその実践を著しく低減化した。これに伴い地域全体としての不安や暗さが広がっている。経済状況の好転や雇用創出による人口増加を待つばかりではなく、地域に暮らす者にとっての安心を確保するために住民相互の信頼感や一体感を醸成することが喫緊の課題である。この解決にあたっては、これから社会を担う子ども達ばかりではなく、関係する大人達も、経済的な価値だけではなく、掛け替えの無い自然の豊かさを体感することなどで郷土意識を育み、多様な価値観を共有あるいは認め合うことが重要である。そこで広がりをもったご近所付合いの復活と世代間の交流、共助を推進することを目指して、帯広川の水辺を学校教育を含む生涯学習や地域住民の交流の場として活用する。特に、自然豊かな帯広川を継続的に維持・管理するには公的な取り組みばかりではなく個々人の日常的な行動が大きく影響することを理解して自助、共助の精神や行動を活発化させる。

2. 事業の計画

勉強会は広く市民に公開するが、体験学習等の水辺での支援活動では、子供の世話をする大人の人数や用具数の制約から1回最大35名程度で実施する。主な実施場所は、勉強会等では市施設である西十号会館で、体験学習では河川敷公園（ちびっ子広場）付近の帯広川で実施する。実施に当たっては、NPO、民間企業、子どもの水辺北海道地域拠点センター等の協力を得、さらに北海道十勝総合振興局帯広建設管理部事業室治水課、帯広市の都市建設部管理課、市民活動部市民活動推進課および教育委員会にはご指導を頂くとともに必要に応じて報告を行う。

勉強会および体験学習等は下記の通り計画した。

2.1 勉強会

- ① 易しく学ぶ水の検査（3世代；親子孫の世代を表す）
- ② 河川管理の仕組み ― 私たちが出来ることとは ―（親子世代）
- ③ 水棲生物を知る（3世代）
- ④ 水道水ができるまで（3世代）
- ⑤ 水資源の危機とは（親子世代）
- ⑥ 帯広川のクレソンは食べられるの？

2.2 体験学習

- ① 易しく学ぶ水の検査（3世代）
- ② 水棲生物を知る（3世代）
- ③ 帯広川を流れてみる（3世代）
- ④ 帯広川をきれいにする（3世代）
- ⑤ 成果発表会（3世代）

2.3 役員会

拡大役員会を含めて毎月開催し、帯広川の環境、安全等について検討する。さらに年次・人材育成計画の管理と評価、中長期計画の策定等を行う。

2.4 親睦会

各種団体との連携方策の検討および親睦を図るため年に2回開催する。

2.5 広報

個別事業の案内は報道機関に協力を求めるが、町内会等のネットワークを有効活用する。年度末には事業報告書を作成し、関係者および機関へ配布する。

3. 実績

平成24年度は、学校教育支援8回、勉強会等6回、河川活動として水質・生物調査、河川清掃、河川環境整などを行い、延1,016名が参加した。

水辺での支援活動は、計画では1回最大35名程度を予定していたが、小学生への支援では学校が準備したライフベスト等の装備があり、今年度は最大53名の児童を支援した。

勉強会では、⑥が実施できなかったが、これは、今年度も帯広川でクレソンが繁茂しなかったことによる。その理由は不明であるが、帯広川で採取した生き物を食べることは、食全般や生物学に関わる知識が向上するとともに、地域の豊かな自然を体感して郷土愛が育まれるばかりではなく先人の知恵を学ぶ好機として企画している。このため本年度は、クレソンの代替として帯広川でドジョウを捕獲し、安全性を確認した後に子供を含む参加者全員で賞味することとした。

今年度の事業実績を時系列で示したのが表3.1である。

3.1 学校教育（水辺体験学習）支援

概要：本年は幼稚園年長園児2組、小学児童4学年、保育園の園児2組、合計8組（8日）の教育支援を実施した。延べ参加者、園児・児童267名、大人267名、合計534名であった。町内会子ども会への支援を含めて子供と大人の参加者についてグラフ化したものが図3.1である。小学2年生以下では、川に親しむことと同時に川に潜む危険を理解、体感できるよう支援を行った。これ以上の高学年では、水棲生物の観察や川の水質との関係などの教育支援を行うと共に自らが暮らす地域の自然の豊かさを認識できるように努めた。また、教員等に対しても帯広川の水質の特性や生息する生物、特にウチダザリガニやブラウントラウト等の外来生物、漁業権が設定されているヤマメ等についても知見を教示した。なお、地域の学校教育支援を行う中学校区支援地域本部の委員等に事務局から4名が就任した。

- ① 帯広幼稚園年長園児 7月10日(子供28、大人36名)写真03
- ② 帯広幼稚園年長園児 7月12日(子供25、大人32名)写真04、新聞05
- ③ 開西小学校2年生 7月18日(子供53、大人33名)写真05
- ④ トムテのいえ 7月28日(子供18、大人44名)認可外保育施設家庭保育園、写真06
- ⑤ つばさ保育所 8月2日(子供18、大人31名)社会福祉法人、写真07
- ⑥ 開西小学校1年生 8月23日(子供45、大人33名)写真08
- ⑦ 開西小学校4年生 8月28日(子供39、大人28名)写真09
- ⑧ 開西小学校3年生 8月29日(子供41、大人30名)写真10

- ・開西小学校におけるサケ稚魚の飼育支援(4月5日から合計6回、延18名)
サケの飼育水槽の水を帯広川の川水と定期的に交換した。その結果、全ての稚魚が放流まで生存した。(写真01、新聞03)
- ・緑園中学校区支援地域本部総会 9月2日(事務局3名)

3.2 勉強会等

①特別講演会「川の自然観察支援」(新聞01)

4月23日(月)18時から (於;西十号会館、26名参加)

当協議会副会長 澤田 元を講師として、川の自然観察、特に水棲昆虫の生態や採捕・同定について、講師自らが纏めた29ページにおよぶ資料集を用いて説明した。特に十勝に存在する小河川の水棲昆虫叢から見た帯広川の特徴や珍しい昆虫の発見談などについて解説した。

②体験学習「グミの樹植樹・サケの稚魚放流・川のゴミ拾い」(写真01、新聞03)

5月6日(日)10時から(於;河川敷公園、帯広川、子供25、大人60名参加)

概要:川や海の生物にとって山や川岸の樹木が大切な役割を有することを説明し、グミの苗木を植樹した。その後、「帯広サケの会」などが孵化、育成したサケの稚魚約800匹を譲り受け、さらに開西小学校において飼育した約50匹、合計約850匹を帯広川に放流した。さらに、植樹した場所から放流地点までの帯広川堤防のゴミ拾いを行った。

③体験学習「川とあそぼう!」ー身近な水辺での環境学習ー (写真02)

7月1日(日)10時から(於;札内川園地 第41回ピョウタンの滝やまべ放流祭、子供11、大人19名参加)

概要:十勝総合振興局「もっとエコな十勝づくり」の一環として実施。札内川に注ぐ「函の沢」において川の虫採取、魚の捕獲などの水辺および環境学習の支援を行った。

(参考:<http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kks/yamabehouryu41.htm>)

④体験学習「体感帯広川ー川流れー(ボディラフティング)」 (新聞06)

8月4日(日)10時から(於;帯広川、子供20名、大人31名参加)

概要:地元の子ども会を中心に広く十勝圏から集まった子供20名に対して31名の大人が学習支援を行った。川での安全注意および帯広川の水棲生物について学習した後、実際に水棲昆虫の捕獲・同定および水質との関係について学んだ。その後、希望者に対して安全装備を装着させて浅瀬での川流れを体験させた。

⑤体験学習「帯広川のゴミを考える会」 （写真 11）

10 月 20 日（土）10 時から（於；河川敷公園、帯広川、子供 4、大人 26 名参加）

概要：川や河川敷に捨てられるゴミについて、その特性と捨てる行為について学習および考察した後、約一時間をかけて河川敷のゴミ拾いを行った。さらに帯広川で採取したドジョウについて、その生態や食品衛生学的な視点から学習した後に、味噌煮込鍋に調理して賞味した。

⑥特別講演会「帯広川の特性と利活用の可能性」（新聞 09）

11 月 30 日（金）18 時から （於；西十号会館、30 名参加）

講師に、アークコーポレーションの総括部長 和田 哲也氏を迎えて講演会を実施した。講演の概要は、帯広川の分流堰下流は、流量が比較的に安定して川の自然体験学習に最適であるが、やや富栄養化していることや、さらに繁華街と住宅街を繋ぎ帯広市を東西に横断する帯広川の堤防天端が遊歩道や自転車道に適しているが、一部のみの利用に止まり、これは全体として連続していないことが大きな原因と解説した。質疑では、利用方法、防災あるいは生物叢について活発な議論が繰り広げられた。

3.3 河川活動

下記の活動は学校教育支援等を実施する場所、すなわち帯広市西 21 条南 2 丁目付近の帯広川右岸約 1.5km を中心として行った。

① 水質・生物調査 （図 3.3）

- ・ 6 月から継続して定点（帯広川分流堰付近、図 3.2）における「濁り」と「臭い」を官能的に評価し、あわせて川の水面の写真撮影（図 3.4）も行った。なお、水質に問題があると判断された際には、簡易水質検査（パックテスト）を行った。その結果、7 月に一過性で水質の悪化が認められ、河川管理者に通知したが、その原因については不明だった。
- ・ 6 月から 10 月上旬まで生物の生息調査を行ない、魚類では、ドジョウ、ウグイ、虹鱒の生息が確認された。ウチダザリガニは約 70 匹を駆除したが、昨年まで生息していたブラウントラウトは確認できなかった。

② 河川清掃 （図 3.4）

- ・ 帯広市河川一斉清掃に呼応して実施した。
- ・ 札内川清掃に事務局から 2 名が参加した。
- ・ 協議会役員による定期ゴミ拾いは、週 1 回を原則とし、5 月から 10 月までの間に計 21 回実施した。
- ・ 10 月 20 日に体験学習の一環として子供とともにゴミ拾いを実施した。

③ 河川整備 （図 3.5）

- ・ 帯広市市民協働のまちづくり事業補助金の支援を受けて、ちびっ子広場（河川敷公園、西 21 条南 2 丁目）北側に位置する帯広川排出口周辺の親水広場の整備を行った。6 月 14 日から合計 7 回、延 52 名が参画した。
- ・ 帯広川堤防の危険防止のために草刈、雑木処理を 2 回実施した。

3.4 会議等

①役員会：会長、副会長、事務局長および事務局次長等による役員会を原則月 1 回開催し協議会の運営や帯広川での課題等について検討した。9 回開催した。

②運営委員会：7 月 4 日（水）午後 16 時 30 分から事務局で開催。今年度の学校教育支援について幼稚園、小学校からの要望について議論し、実施案について検討した。

③総会：5 月 1 日（火）午後 6 時 30 分から西十号会館で開催し、前年度の事業・会計報告、今年度の事業・会計、役員、会則変更等を審議した。その結果、全てが承認された。（新聞 02）

④懇談会：協議会運営委員相互および協力を頂いている組織・団体の方々との情報交換および親睦を図るために 5 回実施した。

- ・ 5 月 1 日、総会終了後に実施。自然および環境学習に関わる情報交換を行った。
- ・ 8 月 4 日、体験学習の実施後に開催。教育支援等を実施する方々と情報交換および課題について懇談した。
- ・ 8 月 29 日、帯広川排出口整備実施後に開催。帯広川水辺の環境保全あるいは地域の市民活動等について意見交換を行った。
- ・ 10 月 20 日、体験学習後に開催。参加した大人、子供と共に帯広川で採取したドジョウを味噌煮込み鍋で賞味し、帯広川の水質について意見交換を行った。
- ・ 11 月 30 日、特別講演会後に開催。NPO、講師および一般の方を含めて帯広川の活用について意見交換を行った。

⑥かわまちづくり勉強会 （新聞 07）

昨年度に立ち上げた市民による帯広川活用のための協議会を発展させ、「かわまちづくり」勉強会；りんりんプロジェクト（仮称）を設置した。構成員は、北海道十勝総合振興局、帯広市都市建設部、NPO、民間団体、地域町内会等とし、6 月 1 日から準備会を含めて会議 4 回、現地見学会 1 回を実施した。

3.5 その他

- ・ 緑園中学校区支援地域本部の委員（1 名）、学校支援ボランティア（3 名）に就任した。
- ・ ウチダザリガニを採捕するための「かごによる採捕許可証」を北海道知事から受領した。
- ・ 6 月 4 日（月）：全国水環境マップ実行委員会主管の水質検査実施。
- ・ 帯広市環境交流会：11 月 11 日（日）10 時から 17 時まで、とかちプラザで開催。パネル展示を行い当協議会の活動を周知すると共に、参加団体等と意見交換を行った。
- ・ 第 4 回とかちみずべフォーラム「川×子ども＝∞ ～川から変わる、地域の未来～」(十勝水辺体験推進協議会主催)：11 月 25 日（日）13 時から、「帯広の森・はぐくむ」で開催。2 名が参加、発表した。（新聞 08）
- ・ 十勝総合振興局主管「とかちエコマエストロ」に第一号として登録。
- ・ 北海道が管理する小河川を利用した環境教育報告会：12 月 7 日（金）13 時 30 分から、十勝総合振興局会議室で開催。2 名が参加、発表した。
- ・ 北海道開発局が主管する札内川懇談会に 3 回出席した。
- ・ 北海道十勝総合振興十勝川右岸圏域河川整備計画検討委員会委員に就任し、1 回出席した。

4. 総括

帯広川河畔を、学校教育を含む生涯学習や地域住民の交流の場として活用することで、地域の自然の豊かさを認識し、さらに世代間の交流やご近所付き合いの活発化などにより共助を推進することを目指した。自然豊かな帯広川を継続的に維持・管理するには公的な取り組みばかりではなく個人の日常行動が大きく影響することを理解して自助や共助の精神および行動を活性化させることを目的とした。

当協議会は設立3年目となり、日常の活動は比較的に安定して実施できるようになってきた。しかし、事業遂行に当たっては、特に川での活動や支援において安全確保が最重要であり、事故がないよう努め（新聞04）、また、多くの役員が居住する町内会と一小学校の校区の方々を主な対象として活動しているために、事業やその遂行が慣習化することを戒めている。

昨年度からホームページの活用や地元新聞の協力を得て、広報に努めて参加者の居住する地域が拡大してきた。当協議会の活動は、地域、十勝の自然が豊かであることを十勝の住民が認識し、さらに水辺の生涯学習を契機として世代間交流や地域コミュニティが活性化することを示すことができたものと自負している。

今年度の新規事業として、帯広川排出口周辺の親水広場の環境整備を行った。帯広市の補助を受け、十数年間放置され荒れ放題の水辺を、自助、共助の精神によって安全で快い広場として整備することができた。しかし、これは単年度の補助事業のため、次年度からの維持管理については、その方策を検討しなければならない。検討に当たっては、当該広場の有効活用が必須であり、散策路、接近路の下草整備、釣り場の整備・安全確保、盆祭りの企画（灯籠流しと子供花火）などを当協議会が自主的、主体的に企画することとしている。

体験学習、教育支援、世代間交流および帯広川の環境保全活動は計画の通り実施した。勉強会では、先述の通り、⑥帯広川のクレソンに関して学習と試食を予定していたが、クレソンが繁茂しなかつたことで中止した。ここ数年、以前には帯広川でクレソンがいたる所で繁茂していたが、ほとんど見られなくなった。その原因は不明であるが、帯広川で採取した生き物を食べることは、食全般や生物学に関わる知識が向上することにつながり、さらに地域の豊かな自然を体感して郷土愛が育まれるばかりではなく先人の知恵を学ぶ好機として企画している。このため本年度は、クレソンの代替として帯広川でドジョウを捕獲し、安全性を確認した後に子供を含む参加者全員で賞味することとした。その結果、子供を含めて賞味した参加者は、ドジョウが食べられること、生息数の多いこと、中々の味であること、数十年前には、一部で普通に食べていたことなど新鮮な驚きを体験していた。これは、自然体験が、環境、エネルギー、経済などの現代社会が抱える諸問題を、人間の絆、食育あるいは地産地消などといった観点から考える良い契機となるものと思われた。

本協議会で中核として活動する人材は限られ、さらに春から秋の間は日常活動が多岐に渡るために、中長期計画とそれを担保するための持続的・自立的な財務計画の策定には至っていない。今年度、市民が帯広川流域全体を持続的に利活用するために、帯広市の内閣府認定「環境モデル都市」計画の中に位置付けられる「かわまちづくり」協議会が必要と考え、その設立準備のための「かわまちづくり」勉強会を実施した。すなわち、市民主導により帯広市を東西に横断する帯広川の流域全体を一体的に考えるための組織を民産学官連携で立ち上げることが重要である。当協議会の試案の主な内容は、市の中心部から集積した住宅地である西部地区を繋ぐ遊歩道あるいはサイクリングロードとして帯広川堤防天端等を車道と完全に分離した形（橋の下部を繋ぐ；アンダーパス）で活用するもので、これは大火災や震災時の避難路および水害時の土嚢の設置ある

いは貯蔵場所としても活用し得る。日常の草刈、清掃などの点検・維持活動は、河畔の町内会等の地域主体で行い、あわせて水質の異常や危険箇所などを河川管理者へ通報することとし、さらに河畔林は「帯広の森」計画の回廊部分として位置づけて市民の憩いの場として活用を図るものとする。これらを具現化するために、先ず、河川管理者、市、NPOおよび当協議会等との情報交換を目的とする勉強会を3回実施した。その中で、帯広川に特化するのではなく、帯広市を含む十勝全体での仕組み作りの重要性が指摘され、今後、さらに検討することとした。当面、当協議会および地域町内会等の組織および財務体質の強化が重要であり、特に若い人材の発掘や組織間の連携については早急に検討を行い実行することが望まれた。

表 3.1 平成 24 年度実施事業

月	日	曜日	事業等	参加者	場所等
4	5	木	サケ飼育（水交換）	4	開西小学校
	9	月	帯広市助成金説明会	4	帯広市役所
	9	月	サケ飼育（水交換）	2	開西小学校
	11	水	事業および会計監査	6	西十号会館
	17	火	サケ飼育（水交換）	3	開西小学校
	23	月	特別講演会「川の自然観察支援」	26	西十号会館 十号会館
	25	水	役員会	4	事務局
	26	木	サケ飼育（水交換）	3	開西小学校
	30	月	サケ飼育（水交換）	2	開西小学校
5	1	火	総会・懇親会	25	西十号会館
	3	木	サケ飼育（水交換）	4	開西小学校
	6	日	グミの植樹・サケの稚魚放流会	85	帯広川
	13	日	役員会	5	事務局
	24	木	北海道が管理する小河川を利用した環境教育連絡会	2	十勝総合振興局
6	1	金	かわまちづくり勉強会	2	帯広市役所
	4	月	全国水環境マップ実行委員会主催 水質検査	2	帯広川
	5	火	帯広川現地調査、役員会	5	帯広川
	14	木	帯広川排出口整備	8	帯広川
	21	木	帯広川排出口整備	7	帯広川
	26	火	かわまちづくり勉強会	2	帯広市役所
	28	木	帯広川排出口整備	7	帯広川
7	1	日	ひょうたんの滝祭 十勝総合振興局主催 水辺体験学習支	3	中札内村札内川園地
	4	水	運営委員会	7	事務局
	5	木	帯広川排出口整備、役員会	8	帯広川
	10	火	水辺体験教育支援；帯広幼稚園年長園児	63	帯広川
	12	木	水辺体験教育支援；帯広幼稚園年長園児	57	帯広川
	18	水	水辺体験教育支援；開西小学校2年生	86	帯広川
	21	土	帯広川排出口整備	6	帯広川
	22	日	ゴミを考える懇談会	18	西十号会館
	28	土	水辺体験教育支援；トムテ	62	帯広川
8	2	木	水辺体験教育支援；つばさ保育園	49	帯広川
	4	土	体験学習「体感帯広川 -川流れ-」	51	西十号会館、帯広川
	4	土	役員会、帯水協懇談会	26	河川敷公園
	9	火	帯広川清掃	5	帯広川
	14	日	帯広川排出口整備	7	帯広川
	23	木	水辺体験教育支援；開西小学校1年生	78	帯広川
	28	火	水辺体験教育支援；開西小学校4年生	67	帯広川
	29	水	水辺体験教育支援；開西小学校3年生、懇談会	71	帯広川
	29	水	帯水協懇談会	12	河川敷公園
	30	木	札内川懇談会	3	帯広川
9	2	日	役員会	4	事務局
	22	土	かわまちづくり勉強会	2	帯広市役所
	24	月	帯広川排出口整備	9	帯広川
10	2	火	役員会、勝毎取材（サケ遡上）	3	帯広川
	16	火	帯広市議会議員への説明会	8	帯広市議会棟
	19	金	札内川懇談会	1	十勝館
	20	土	帯広川のゴミを考える会	32	帯広川
11	11	日	役員会、帯広市環境交流会	4	とかちプラザ
	19	月	十勝川右岸懇談会	1	十勝総合振興局
	25	日	とかちみずべフォーラム（十勝水辺体験推進協議会）	3	帯広の森交流館
	30	金	特別講演「帯広川の利活用を考える」主催	30	西十号会館
12	7	金	北海道が管理する小河川を利用した環境教育報告会	26	十勝総合振興局
	8	土	役員会	5	事務局
	10	月	札内川懇談会	1	北海道エールセンター
1	16	水	かわまちづくり勉強会	2	帯広市役所
	25	金	役員会	5	事務局
	29	火	十勝川右岸懇談会	1	十勝総合振興局
2	5	火	役員会	4	事務局
3	2	土	市民協働のまちづくり報告会	5	市民活動プラザ六中
	7	木	札内川懇談会	1	帯広開発建設部
	8	金	特別講演会「地域における帯広川の役割について」	33	西十号会館
	13	水	札内川懇談会	1	十勝館
	18	月	サケ稚魚受入れ	4	開西小学校
	19	火	役員会	3	事務局

図 3.1 2012 年の水辺学習における子どもと大人の参加者数

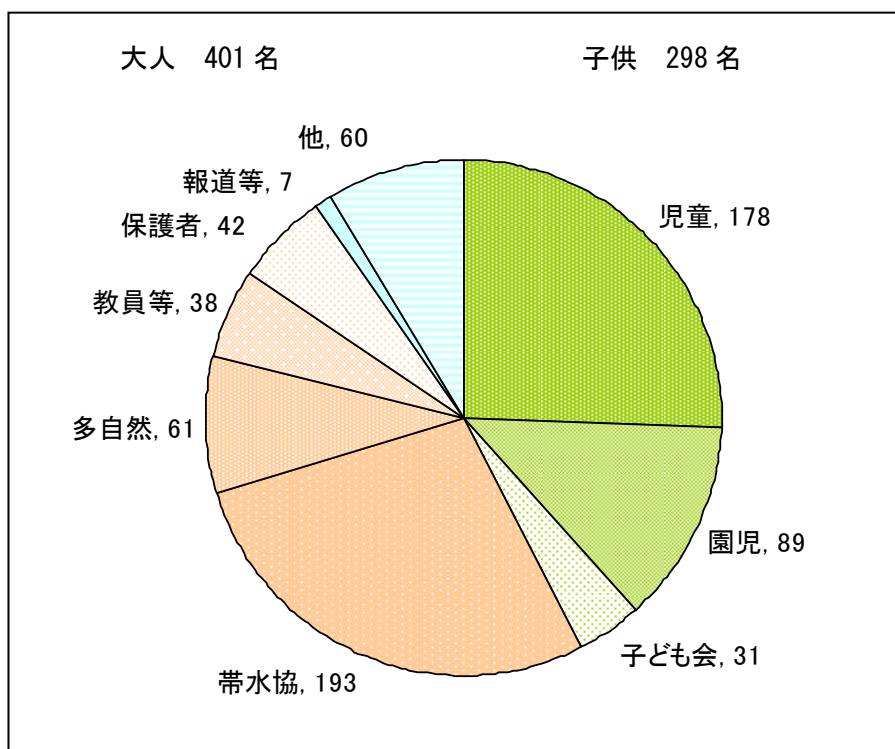


図 3.2 帯広川における活動場所および水質調査地点

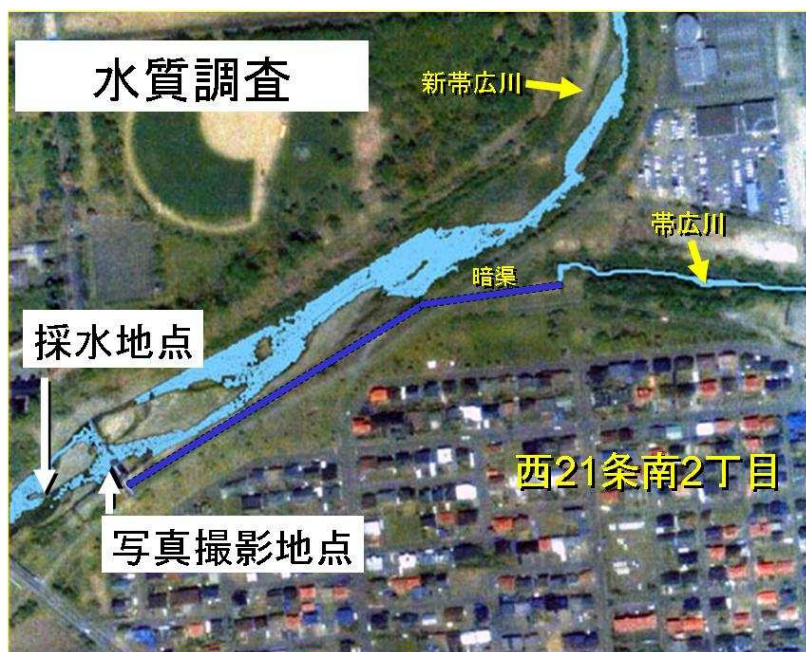


図 3.3 帯広川における水質検査：水面の観察



図 3.4 帯広川におけるゴミの実態と収集



図 3.5 帯広川排出口周辺の親水広場の環境整備



活動写真



写真 01 5/6 ①植樹 ②サケ稚魚放流 ③ゴミ拾



写真 02 7/1 ピョウタンの滝やまべ放流祭



写真 03 7/10 帯広幼稚園 ①挨拶 ②川流れ



写真 04 7/12 帯広幼稚園 ①帯広川 ②準備打合せ ③生物採取 ④観察



写真 05 7/18 開西小 2 年生 ①挨拶 ②川全景 ③生物採取 ④生物採取



写真 06 7/28 トムテの家



写真 07 8/2 つばさ保育所



写真 08 8/23 開西小 1 年生



写真 09 8/28 開西小 4 年生



写真 10 8/29 開西小 3 年生



写真 11 10/20 帯広川のゴミを考える会

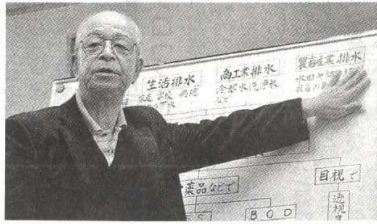
新聞 01

十 勝 毎 日 新 聞

2012年(平成24年)5月1日(火曜日)

帯広川伏古子どもの水辺協
大人が環境守る手本を
自然観察支援学ぶ講演

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会(関川三男会長)の特別講演会が4月23日、市内の西十号会館で開かれた。会員25人が参加。同会の澤田元副会長が



川の自然観察について講演する澤田副会長

「川の自然観察支援」と題して講演し、「川の水の汚れは、そこに生息する水生生物を調べることで予想できる」と説明。また、化学薬品を使って川の水質を分析するパケットという方法を使うことで、より正確な結果が得られる一とした。

澤田副会長は「子どもたちが正しく自然と向き合うためには、まず大人が環境保全の手本を示すことが大事」と語った。

(小縣大輝)

新聞 02

十 勝 毎 日 新 聞

2012年(平成24年)5月17日(木曜日)



(小縣大輝)

◆帯広川伏古地区子どもの水辺協議会(関川三男会長) 同協議会は西帯広地区の帯広川保護に取り組んでいる。総会は1日午後6時半から帯広市内の西十号会館で開かれた。運営委員ら24人が出席。関川会長が「世代間交流をこれからも継続させたい」とあいさつし写真。昨年度の事業や収支決算の報告を承認した。今年度の事業では、帯広幼稚園の園児と開西小学校の児童を対象とした教育支援や川に関する講演会を行うことなどを決めた。

新聞 03

十 勝 毎 日 新 聞

2012年(平成24年)5月7日(月曜日)

サケ稚魚850匹
帯広川に放流
帯広川伏古地区子どもの水辺協議会(関川三男会長)による「サケの稚魚放流体験会」が6日午前10時、帯広市西21南2の河川敷公園に集合して行われた。晴天の下、子供たちは笑顔でサケを帯広川に放流した写真。

子供から大人まで約85人が参加。関川会長が「川が増水しているかもしれない。サケの稚魚が小さくて



かわいかった。すごく楽しかった。川本結未伽さん(9)は「意外と小さくてびっくりした。サケの稚魚を初めて見られてうれしかった」と満足そうに話していた。(小縣大輝)

川に潜む危険理解を

幕別で男児
流され死亡 子供だけで遊ばせない



川に潜む危険や川との付き合い方を説明する関川会長

子供が犠牲になった 近年の水難事故

2009年5月
幕別市内の十勝川で遊んでいた小・中学生4人が流され、うち小学4年の女子児童が死亡
2011年9月
帯広市内の札内川で、中学生5人が丸太に乗って遊んでいたところ、うち中学2年の男子生徒が流され死亡
2012年5月
幕別市内の遠別川で、付近で遊んでいた男児(5)が流され死亡

帯広川伏古地区 関川会長に聞く 子ども水辺協

幕別市内の遠別川で、付近で遊んでいた男児(5)が流され死亡。関川会長は、川に潜む危険や川との付き合い方を説明する。関川会長は、川に潜む危険や川との付き合い方を説明する。関川会長は、川に潜む危険や川との付き合い方を説明する。

水難事故が後を絶たない現状をどう受け止めているのか。川に潜む危険や川との付き合い方を説明する。関川会長は、川に潜む危険や川との付き合い方を説明する。関川会長は、川に潜む危険や川との付き合い方を説明する。

川辺の生物見つけた



帯広 幼稚園児が体験学習

川辺の楽しさを味わう。内帯広幼稚園(谷内)の園児らと、帯広市自然環境課の職員らが、川辺の生物を探し、観察し、学習を行いました。



平田路佐樹

体験したのは年長組の29人で、ライフジャケットとヘルメットを付け、川の流れる身を任せて泳ぐ「カッパの川流れ」を体験。川辺の石の下にすむ虫を観察したり、泳いでいるドジョウやスナヤツメを網ですくうなどして川の楽しさを満喫していました。

川流れを何度も行った高田紗月美ちゃんは「プカプカ浮いて楽しかった」と笑顔で話し、また川流れの列に戻って行きました。

川遊びを満喫 生物も学ぶ



川遊びを楽しむ園児

通園施設「帯広あおぞら」(橋本充久に所長、園児38人)の子供たちが、帯広市社会福祉法人慧誠会つばさ保育所(足立文子所長、園児72人)と知的障害児童だ。

帯広川伏古地区子ども水辺協議会(関川三男会長、長とNPO十勝多自然ネットワーク(西江靖幸理事長)が

企画。2日に行い、園児19人が参加した。園児たちはライフジャケットとヘルメットを装着して、川遊びを満喫。帯広あおぞらの橋本所長は「川や川の虫を採取し、川での自然体験は子供にとって有益だが、単独の開催には安全確保や専門性など難点も多い。今回のように支援してもらえればありがたい」と話した。関川会長は「この種の活動を通して、地元の豊かな自然を子供から大人までに体感してもらい、世代間や地域の交流が活発になることを願う」と語った。(小縣大輝)

帯広川沿いで川の水質などについて説明を受ける参加者



帯広川沿いで
(市内西21南
2付近)の帯
広川沿いで

伏古地区
(市内西21南
2付近)の帯
広川沿いで

が参加した。
19人が参加した。

画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

業の一環で計
画のイメージ
をもち、実施した。

帯広川沿い巡り 活用方法を議論

環境保護関係者が見学会

十勝管内の自然保護関係者が5日、帯広川沿いを巡る現地見学会を行い、河川整備や空間利用方法について議論を深めた。NPO法人十勝多自然環境センターは、国土交通省が創設した「かわまちづくり支援制度」を活用し、地域と連携した川づくりの計画策定を目指している。今回の現地見学会はこの策定作業の一環で計画のイメージをもち、実施した。19人が参加した。

は、同川伏古地区子どもの水辺協議会の関川三男会長が参加者に、可動堰(げき)や川の水質などを説明。参加者は約8時にわたり川沿いを歩き、河川の構造や周辺環境などを確認した。

参加者からは、使われていない設備の有効利用やサイクリングロードの開設を提案する声があった。案内役を務めたアークコーポレーション(帯広)の野村直也環境部計画課長は「河川の活用と維持管理の両方が、バランスよくできる取り組みを考えていく必要がある」と話した。今回の意見を参考に、今後、勉強会を開く予定。(小縣大輝)

2012年(平成24年)11月26日(月曜日)

川で遊ぶ効用 指導者が発表

みずべフォーラム

十勝水辺体験推進協議会(辻忠治会長)主催の「第4回とちみずべフォーラム」川×子ども∞川から変わる、地域の未来」が25日、帯広の森・はぐくむ(帯広市南町南9線)で開かれた。水辺体験活動を運営したり、関心のある約25人が参加し、水辺体験の重要性や活動運営について理解を深めた。

2012年度の十勝水辺体験推進事業として河川整備基金の助成を受けて開催。「十勝を川遊び特区にしよう。そのために10年後の未来を描こう」とテーマに、水辺遊びに取り組み地域団体の代表者や小学校教諭、学生らが事例発表とデ

イスカッションを行った。本別中央小の杉田哲男教諭は総合学習の時間を利用した5年生による川での学習活動を発表。「水質検査

水辺体験の活動事例をもとに議論を深めるパネリスト



また、帯広畜産大学カヌー探検部の3人は、帯広市文化スポーツ振興財団と相互連携事業で行った「みんなのちくだいのスポーツについていもんですよ」を紹介。

「普段、川で遊ぶ機会が少ない小学生らに、川での安全な遊び方を伝えることができて良かった」と話した。その後は発表者を交えたディスカッションに続き、グループに分かれて意見交換も行い、参加者は子供たちが安心して遊べる川づくりに取り組むことを決めた。(小縣大輝)

また、帯広畜産大学カヌー探検部の3人は、帯広市文化スポーツ振興財団と相互連携事業で行った「みんなのちくだいのスポーツについていもんですよ」を紹介。

十 勝 毎 日 新 聞

2012年(平成24年)12月4日(火曜日)

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会
水辺協議会
帯広川伏古地区子どもの水辺協議会の特別講演会が11月30日、帯広市内の西十号会館(西21南2)で開かれ、参加者が身近な河川環境について学んだ。
会員ら30人が参加。同協議会に企業ボランティアとして参加する同市内の建設コンサルタント会社「アーココーポレーション」(伊豆倉米郎社長)の和田哲也統括部長(57)が「帯広川の特性と利活用の可能性」と題して講演した。
和田部長は帯広川の特性を、「増水しにくく安全な半面、よごんだり、草が生えたりしやすい」と説明。その上で利活用方法につい

帯広川活用を

水辺協議会

て、「堤防を自転車路や散策路として整備し、帯広の東西を川でつなぐ」「祭りなどを催すことで、より市民が親しめる環境をつくる」などと提言した。
(角田悠馬)



講演する和田部長

参考 イベントのポスター

ポティーラフティング 体験帯広川 川流れ体験

日時: 2012年8月4日(土) 10時-12時
集合: ちびっこ子広場(西21南2)



ライフジャケットなどの安全装備を着用して帯広川を流れます。

超
気持ち良い



参加を希望される方は、帯広川伏古地区子どもの水辺協議会事務局長 佐藤宣之まで電話でお申し込み下さい。
0155-34-9148(8/1日×切)
なお、安全確保や保険等の関係から定員は20名です。申し込み多数の際は抽選とします。参加者の方には詳細なご案内を後日差し上げます。

主催: 帯広市西21新興町内会子ども会、帯広川伏古地区子どもの水辺協議会
後援: NP0十勝多自然ネットワーク

なお、この体験会は(財)河川環境管理財団の河川整備基金および帯広市の助成を受けて実施されます。

帯広協

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会 特別講演会

日時: 2012年11月30日(金)18時より
場所: 西十号会館(西21南2)会議室



帯広川の特性と 利活用の可能性

アーココーポレーション(株)

統括部長 和田 哲也氏

帯広川の特性、すなわち流域、形状、生息生物等の簡単な解説を行い、続いて他地域における河川の利活用事例やその方策から、今後の帯広川の有効活用について考えます。

お問合せは、会長 関川三男(34-7178)あるいは事務局長 佐藤宣之(34-9148)へお願いします。なお、講演会終了後に同所にて懇談会を会費500円でを行います。車での来場はご遠慮下さい。

本事業は、(財)河川環境管理財団の河川整備基金および帯広市の助成を受けて実施されます。